

第5次総合計画 後期計画（案） 現状維持あるいは下方修正としている指標についての考え方

| 基本目標 | 大分類 | 中分類 | 小分類 | 指標 | 現状値 | 目標値 | 意見に対する回答 | 修正の有無 | |
|------|----------------------------|----------------|-----------------|--|-------------------|----------------|--|--|---|
| 暮らし | 多様性を尊重し、住民が主体的に協働・共生する村づくり | 多様な人々の交流・共生 | 移住・定住の推進と住環境の充実 | 移住定住イベント出展・開催回数 | 4回/年 | 4回/年 | コロナウイルス等の影響によるリアルイベントの減少などもある事や、財政面も考慮し現状回数の維持が妥当と考えます。 | 無 | |
| | | | 多文化共生 | 外国人住民との意見交換会開催回数 | 2回/年 | 2回/年 | 意見交換会は年2回が妥当と考えます。 | 無 | |
| | | | | 英語版広報誌発行数 | 12回/年 | 12回/年 | 月1回の発行が限界のため12回が妥当と考えます。 | 無 | |
| | | | 村外白馬ファンの活用 | ふるさと白馬応援し隊 隊員対象イベント開催回数 | 1回/年 | 1回/年 | 費用負担が生じるため、年1回の開催を維持することが妥当と考えます。 | 無 | |
| | | 日常の住みよさの確保 | もてなしの村づくり | 村有地の環境美化活動回数 | 2回（各課管理地・互助会） | 2回（各課管理地・互助会） | 地区からは人口減少で普請等の環境美化が出来ないとの意見もありますが、最低限の環境美化（草刈、普請等）を官民で実施し、来訪者をもてなしましょうとの意気込みを表しています。 | 無 | |
| | | | | 地区の環境美化活動回数 | 60回（30地区 x 2回） | 60回（30地区 x 2回） | | 無 | |
| | | | 村内の移動手段の確保 | <既存公共交通網のネットワーク向上> 神城駅、白馬駅の乗車人数実績（※網形成計画） | 337人 | 現状維持 | 地域公共交通網形成計画と合わせます。（人口減少の中で現状維持は実質時増加に等しい） | 無 | |
| | | | | <村民との協働機会の創出> 地域公共交通会議の開催（※網形成計画） | 1回 | 1回以上 | 地域公共交通網形成計画と合わせます。 | 無 | |
| | | 支え合う福祉と健康の村づくり | 子育て支援 | 安心して産み育てることができる医療体制の維持・充実 | 大北圏域産科医数 | 1か所 | 1か所 | 大北圏域産科数について、11月から大町総合病院で医師不足により産科診療が休止となっている。現状値に対しての目標は、維持（1か所）となります。 | 無 |
| | | | | 子育てと仕事の両立支援 | 休日保育利用者数 | 475人 | 400人 | 令和元年度の利用者数につきましては、ゴールデンウィークや年末年始等休暇が例年より多く利用者数が増加したものと考えられます。そのため、それ以前の利用者数の伸び率を考慮し目標数値を設定しておりますので、変更は致しません。 | 無 |
| | | | | | 放課後児童クラブ利用者数 | 527人 | 470人 | 休日保育利用者数と同様、令和元年度については長期休暇等の影響があり利用者数が増加していると考えられます。また、ご両親の就労状況により利用者数は増減があります。令和元年度以前の利用者数の伸び率を考慮し目標数値を設定しておりますので、変更は致しません。 | 無 |
| | | | 優良農地の保全 | 有害鳥獣対策 | 電気柵資材購入補助件数（個人向け） | 10件/年 | 10件/年 | 見直しにより年15件へ変更します。なお、国補助の電気柵設置や緩衝帯整備による被害防止対策に重点を置き、個人用の電気柵設置はそれほど強化しなくても良いと思われれます。 | 有 |

| | | | | | | | | |
|----|--------------------|--------------------|-----------------|--------------------------|--------|----------|--|---|
| 産業 | 農地と森を守り地産を活かす村づくり | 森林の整備と活用 | 森林資源とふれあう機会の創出 | 木流川観察会開催回数 | 4回/年 | 4回/年 | 提言書では「木流川観察会開催回数」は指標にふさわしくないとのことですが、「みどりの少年団」では毎年「大北森林祭」、「大北地区交流集会」を実施しており、植樹や森林学習活動を通じて森林とふれあう場を作っています。また、各学校で行うキャンプ等野外活動の際に林業改良指導員に依頼して木工作业等を行っています。このような活動も指標に加えたり、村内のNPO等と協力して子どもが森林とふれあう場を創出していくように見直ししたいと思います。 | 有 |
| | 民間活力を活かす村づくり | 産官学勤労言連携 | 大学・企業等との連携 | 連携協定に基づき進行中の事業 | 6事業 | 6事業 | 現在進んでいない事業もあるため、事業内容の見直しも含め6事業とします。 | 無 |
| ひと | 学びあい育てあうむらづくり | 次世代を担う子どもたちの学習支援 | 地域を担う人材の育成 | 白馬高校他県からの入学者数 | 20人 | 20人 | 県外生については20名（1学年）程度として受入れが妥当な数であり、3学年で60名となります。白馬中・小谷中の卒業生を35名（1学年）とすると3学年で105名となり、計で165名と考えられます。更に、旧12通学区と県内他地区が加味されていないので、1学年10名程度とすると3学年で30名となり、3学年の総数は195名程度となり、1学年2クラス65名で1クラス32名ないし33名となります。 現在考えられる寮生の総数は県外生を受け入れることとして、男女各20名ずつ計40名と考え、残りの生徒は下宿対応と事と考えています。 費用面とのすり合わせを行えば、20名程度が妥当な生徒数と考えられます。 | 無 |
| | | | | しろうま学舎塾生数 | 63人 | 60人 | 塾の生徒数は考え方によりますが、年度当初の入塾数は1年生が相当数入り、夏休み後や部活等の忙しさで退塾し、60名は最終的な確定数となっております。年度当初の生徒数を記入すればかなりの生徒数となります。 地域高校としての存続を考えるなら、県外生を多く求め数字合わせを行うより、白馬高校の魅力（有名大学への進学や有名企業への就職）を作り上げて、地元や旧12通学区生徒を多く集めて行くことが本来の考え方と思います。 | 無 |
| | 生涯にわたりスポーツに親しむ村づくり | スポーツによる健康づくりと活力の創出 | スポーツによる健康増進 | 白馬村体育協会・スポーツクラブ主催教室の参加者数 | 4,845人 | 4,800人以上 | 見直しを行い、目標値を6000人以上に変更します。 | 有 |
| 自然 | 自然との生き方を受け継ぐ村づくり | 守るべきふるさとの歴史と文化の継承 | 登山・スキーの歴史・文化の継承 | スキー教室参加者数 | 延べ51人 | 延べ50人以上 | 見直しを行い、目標値を延べ70人以上に変更します。 | 有 |
| | 美しい景観を守り育む村づくり | 自然環境に調和したまちづくりの推進 | 美しい風景を守るための景観形成 | 屋外広告物パトロール実施回数 | 1回/年 | 1回/年 | 屋外広告物は県条例の下で行っているため、県が実施する回数に合わせます。 | 無 |
| | | | 空き家・廃屋対策 | 空き家の数 | 14軒 | 14軒 | 14軒は努力により少なくなった結果のため、5年間では現状維持が精一杯と考えます。 | 無 |
| | | | 不法投棄・野外焼却の防止 | 不法投棄監視パトロール回数 | 34回/年 | 34回/年 | 不法投棄パトロールについては降雪機以外の期間週1回実施しています。降雪が遅い年、雪解けの早い年は随時状況により実施しています。目標については変更しません。 | 無 |